

論文内容要旨

論文題目

仮名語と漢字語音読の乖離現象に関する認知神経心理学的考察

所属部門： 臨床的機能再生 部門

所属講座： 言語分析学 講座

氏名：山岸達弥

【内容要旨】(1,200字以内)

著明な呼称障害と漢字失読を呈する流暢性失語症患者に、仮名語音読に関して顕著な絵のキュー効果が見られた。一方、漢字語音読には同効果が見られなかった。この仮名語と漢字語の乖離を、音読のトライアングル・モデルに基づき認知神経心理学的に考察する。

症例は、69歳、右利き男性。会社社長。学歴は高校卒。2003年11月左中大脳動脈領域に広範囲な梗塞巣を認め、保存的治療を受ける。その後、意識清明、麻痺もほぼ消失したが、失語症は残存し、一部状況判断は可能なものの、ジャーゴン様の発話が著明であった。

言語症状は、呈示された絵カードは理解可能であるが、呼称は不可であった。漢字語はジェスチャーなどから意味は理解していると考えられるが、個人的に親密度の高い単語（野球用語など）以外は音読できない(2/65)。仮名語はある程度音読可能であった(38/65)。症例の特異な点は、漢字語に絵カードを対連合して呈示しても音読成績に著明な変化は現れないが、仮名語に絵カードを対連合させると音読の成績が著しく上昇した点である。仮名語音読に明らかな絵のキュー効果が認められた。

文字から音韻への変換効率が高い仮名語は音韻経路で、同効率の低い漢字語は意味経路で読まれると仮定してみる。呼称も意味経路を用いる。症例はphonologyに障害を受けているとすると、意味経路からのphonologyの活性化は十分に起こらず、漢字失読および呼称障害が併発すると考えられる。仮名語については音韻経路から高効率のphonologyの活性化を受けるので、音読成績が比較的良好であったと考えられる。従って、音読で仮名語にのみ見られた絵のキュー効果は、音韻経路からの比較的強いphonologyの活性化と絵のキューによる意味経路からの活性化の累加的効果によるものと考えられる。一方、漢字語音読は音韻経路からの活性化はなく、絵のキューによる同様の累加的効果は生じなかったと推察される。

平成 19 年 1 月 28 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 山岸達弥

論文題目： 仮名語と漢字語音読の乖離現象に関する
認知神経心理学的考察

審査委員：主審査委員 丸田忠雄

副審査委員 大谷浩一

副審査委員 佐藤恒哉



審査終了日：平成 19 年 1 月 28 日

【 論文審査結果要旨 】

認知神経心理学から、呼称障害と漢字失読を併発した1症例の認知メカニズムの分析である。

著明な呼称障害と漢字失読を呈する流暢性失語症患者に、仮名語音読に関して特異的に顕著な絵のキュー効果が見られた。一方、漢字語音読には同効果が見られなかった。本稿は、この仮名語と漢字語の乖離を、音読のトライアングル・モデルに基づき認知神経心理学的に考察している。症例は、69歳、右利き男性。会社社長。学歴は高校卒。2003年11月左中大脳動脈領域に広範囲な梗塞巣を認め、保存的治療を受ける。その後、意識清明、麻痺もほぼ消失したが、失語症は残存し、一部状況判断は可能なものの、ジャーゴン様の発話が著明であった。言語症状は、呈示された絵カードは理解可能であるが、呼称は不可であった。漢字語はジェスチャーなどから意味は理解できていると考えられるが、個人的に親密度の高い単語(野球用語など)以外は音読できない(2/65)。仮名語はある程度音読可能であった(38/65)。症例の特異な点は、漢字語に絵カードを対連合して呈示しても音読成績に著明な変化は現れないが、仮名語に絵カードを対連合させると音読の成績が著しく上昇した点である。仮名語音読に明らかな絵のキュー効果が認められた。本稿は、文字から音韻への変換効率が高い仮名語は音韻経路で、同効率の低い漢字語は意味経路で読まれると仮定している。呼称も意味経路を用いる。症例はphonologyに障害を受けているとすると、意味経路からのphonologyの活性化は十分に起こらず、漢字失読および呼称障害が併発すると考えられる。仮名語については音韻経路から高効率のphonologyの活性化を受けるので、音読成績が比較的良好であったと考えられる。従って、音読で仮名語にのみ見られた絵のキュー効果は、音韻経路からの比較的強いphonologyの活性化と絵のキューによる意味経路からの活性化の累加的効果によるものと考えられる。一方、漢字語音読は音韻経路からの活性化はなく、絵のキューによる同様の累加的効果は生じなかったと本稿は推察している。

認知神経心理学は、健常人の高次脳機能のモデル化をもとに、モデルの部分的な障害を仮定することにより、様々な実際の障害発現パターンを予測・説明する。本論文では、流暢性失語患者の1症例について、呼称障害、漢字失読、仮名語音読のピクチャーキュー効果が音読のトライアングルに基づいて明らかにされており、健常人の認知メカニズムを反照的に明らかにしているという点で興味深い論考となっている。

(1, 200字以内)